

平成30年4月13日

報道機関 各位

富山県に出現した九州産ニホンジカ ～遺伝子分析による外来生物の検出～

富山県内に、九州に由来するニホンジカが生息していることが、遺伝子分析で解明された。

富山大学理学部の山崎裕治准教授の研究グループは、富山県自然保護課と連携して、富山県内で捕獲されたニホンジカの遺伝子分析を、2013年から2016年にかけて実施した。富山県内の猟友会から提供された試料について、富山大学の実験室で、ミトコンドリアDNAの遺伝子型を分析した。

その結果、12種類の遺伝子型が発見され、そのうち10種類は富山県と周辺県に共通する遺伝子型であり、在来個体（自然状態で生息する個体）が保持していると考えられた。一方、のこり2種類の遺伝子型は、九州に生息する個体が持つ遺伝子型と同じであることが判明した。これらは、かつて、九州から人為的に富山県に導入されたニホンジカ（外来個体）に由来することが示唆された。

外来個体の出現は、次の2つの問題を有する。

- ①外来個体が在来個体と交雑する（遺伝子汚染の進行）。
- ②県内におけるニホンジカの個体数増加を助長する（生態系の負荷の増大）。

遺伝子分析により、ニホンジカの外来個体が発見された事例は、富山県内では初めてであり、国内でもきわめて希な事例である。

この成果は、権威ある学術雑誌である Zoological Science の電子版において先行発表された。

【本件に関する問い合わせ先】
富山大学 理学部（山崎 裕治）
TEL. 076-445-6642